

# 株式会社 アヴァンス

## ■ 若手農業者でスクラム組んで前進！



### 〈法人の概要〉

所在地: 千061-1366 恵庭市北島 87 番地

代表者: 代表取締役 大滝崇夫

構成員: 5 名 (構成農家 5 戸)

役員: 1 名 常時雇用者: 4 名

設立: 平成 18 年 5 月 資本金: 120 万円

事業内容: 畑作 (転作)

秋まき小麦 10ha、春まき小麦 9.4ha、大豆 7.4ha、  
いちご 0.1ha、長ねぎ 1.6ha、かぼちゃ 1ha、キャベ  
ツ 0.2ha、水稻 1.8ha (H22 年)

経営面積: 32ha

売上高: 4,000 万円 (H21 年) 交付金も含む

電話: 0123-36-5435 FAX: 0123-36-5435

### 〈法人のあゆみ〉

- |         |  |
|---------|--|
| 平成 18 年 | 株式会社アヴァンスを設立<br>構成員 6 名、経営面積 14ha でスタート<br>汎用コンバイン導入、いちごハウスを導入 |
| 19 年    | 借地を 13.5ha 拡大  |
| 21 年    | 借地を 10.5ha 拡大<br>トラクター、スピードスプレヤーを導入                            |
| 22 年    | 水稻、キャベツを新規に栽培<br>現在、構成員 5 名、経営面積 32ha (遊水池事業により借地 6.7ha が減少)   |

### 〈設立の経緯・設立後の状況〉

- ・平成 16 年秋頃、現代表が「北島地区における農業者の高齢化により、遊休農地が増加している。この地域を何とかできないものだろうか」と農業改良普及センターへ相談した。「遊休農地を活用して低下する農業所得を補うには、個人の経営改善や規模拡大だけでは難しく、協業化や法人化も検討しなければならない」との判断から、同地区の 40 代の若手農業者数人に呼びかけ、「みんなで、この地域を何とかしよう」ということで、行動を起こした。
- ・農業改良普及センターが、道央農協や道央農業振興公社と連携し、平成 17 年から、10 回程度、法人経営の学習会や先進事例等の学習会、打ち合わせ会議等を実施した。
- ・議論を重ねた結果、いきなり全て法人に移行するのは大変であることから、現在の個人経営を維持 (9.5~30ha で水稻や水稻・野菜、水稻・花き) しながら、府県の集落営農のような法人を経営することとし、北島地区の 6 戸で平成 18 年 5 月に株式会社アヴァンスを設立。地域の遊休農地を借りて作付け、機械、施設の所有は最小限とし、構成員から賃借することとし、野菜の導入、栽培技術の向上等により、農業所得の向上を目指した。
- ・平成 18 年にいちごハウス 3 棟導入、21 年に水稻、キャベツを新規に作付し、売上高は 4,000 万円 (交付金も含む) を達成。平成 19 年に 13.5ha、21 年に 10.5ha 借入農地を拡大し、平成 22 年現在、構成農家 5 戸、従業員 4 名、季節パート数名、経営規模約 32ha (遊水池事業により借地 6.7ha 減少) に畑作物と水稻、野菜を作付している。

### 〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・作物管理と作業日程の調整や確認が必要なため、作物毎に責任者を決め、月に1日打ち合わせを実施。また、毎日の作業内容は、作業時やメール等で連絡調整を実施。
- ・個別経営で多忙な時期は、個別経営を優先するため、道央農協へ連絡し、労働力を確保。
- ・いちごの構成栽培技術は農業改良普及センターと品種育成元の(株)北海三共が連携し、指導を受けた。

### 〈法人経営のメリット・デメリット〉

- ・地区内の高齢者や離農者の農地を流動化し、遊休農地を有効活用できた。
- ・構成員の得意な分野を担当とし、個別経営に比べ作物の収量が安定した。

### 〈法人が継続するためのポイント〉

- ・収量の不安定が所得の不安定となるため、作物の生育状況に応じた、管理作業(除草、病害虫防除等)が適切に行われているか注意している。
- ・個人経営の生産が減少しないよう、労働は無理せず、担当責任者が、労働力確保を道央農協に依頼する。

### 〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・農業生産法人を設立するには、個々の信頼関係が大切である。

### 〈特徴的な活動や取り組み〉

- ・設立時の構成員の年齢は 43 歳～49 歳で平均年齢 46 歳と中堅農業者が多い。(地域の平均年齢は 59 歳)
- ・集落内の若手農業者が個人経営を維持しながら協業でそれぞれの能力に応じた作業に従事。
- ・いちごは、四季なりいちごを高設栽培。
- ・大豆畦間小麦栽培により、畑作物の輪作体系を維持し、高品質生産を実施。
- ・かぼちゃは、整枝作業のいらぬ品種を栽培し、省力化。

### 〈経営目標と将来の展望〉

- ・経営規模は 40～50ha 位が機械・労働力からも可能である。また、輪作体系を確立し、収量安定を目指したい。
- ・高収入で比較的労働力の少ないかぼちゃ、キャベツの面積を増やし所得向上に努めたい。

※社名「アヴァンス」は、フランス語で「前進」を意味し、「みんなで前進しよう」という心意気がこめられている。

### 〈視察の受入〉

農繁期を除いて要相談。

連絡先: 0123-36-5435 (担当: 代表取締役 大滝崇夫)